

福島養護学校との交流学习(2年)

11月13日におこなわれた福島養護学校との交流学习では、グループごとに「だるまづくり」「ネームプレートづくり」などの作業学習や、終わりの会で一緒にダンスを踊ったりしました。生徒たちの“障がいに対する考え方やイメージ”が、行く前と後で大きな変化があったようです。

ペアのお友達に絵本の読み聞かせをしたときにとても喜んでくれました。今後、障がいがある人を見たときには、以前と違った感じ方をしたいと思います。

小島 瑠華
(伊達郡国見町立国見小学校出身)

実際に交流してみることで、養護学校でどんな学習をしているかなどがわかりました。今回の経験をこれから社会に出ていく中で生かしていきたいと思いました。

藤田 迦奈恵
(米沢市立興譲小学校出身)

気づいたら自分もみんなも笑顔になっていて、とても嬉しくなりました。別れ際にさみしいと言ってくれて嬉しかった反面、心苦しくもなりました。

高橋ゆりか
(福島市立鳥川小学校出身)

みんなと一緒に行動したりすることに、障がいの壁など一切ないと気づきました。交流の意味を、実際に行ってみることでわかった気がします。

石原 玲
(桜の聖母学院小学校出身)

先生方の姿を見ていて、皆真剣に生徒の心(何を伝えようとしているか)を考えていて、それを読み取れるのはすごいなと思いました。

金澤 右京
(福島市立三河台小学校出身)

最初はとても緊張し、話しかけたりすることはできませんでした。福養生のみなさんにやさしくしていただいたことに感謝しています。

鈴木 涼太
(福島市立湯野小学校出身)



成蹊中の学校紹介



かわいいだるまづくり



ネームプレートづくり



慣れない作業は結構難しい...



全員でダンス♪



お礼に合唱を披露しました



別れ際のハイタッチ

芸術の秋♪芸術鑑賞教室♪



10月24日におこなわれた芸術鑑賞教室は、ヘレン・ケラーを題材にした演劇を鑑賞しました。アニー・サリバンとヘレン・ケラーが出会い、2週間の共同生活を送る前後1か月ほどの期間を題材にして描かれたこの作品には、「人と人の出会い」「人間への好奇心と愛情」などのテーマが盛り込まれていました。

この作品から、生徒たちは何を感じ、何を考えたのでしょうか。感想の一部をご紹介します。

アニー・サリバンがヘレン・ケラーに言った、「あなたに覚えてほしいのは、みんなと話せる言葉と生きている幸せ」という言葉が心に残りました。三重苦という障がいをもつヘレンに対して、サリバン先生が一生懸命に生きている幸せを伝えようとしているところに感動しました。

1年 佐藤 千駿(桜の聖母学院小学校出身)

この作品では、何事も諦めないで一生懸命努力するとできないこともできるようになるということを伝えたかったのかと思いました。ヘレンとサリバン先生が努力していたように、これから大変なことがあっても努力していこうと思いました。また、見ている人に気持ちが伝わるように演技されていたのが、素晴らしいと感じました。

1年 半澤 菜幸(伊達郡柔折町立醸芳小学校出身)